

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：47604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04906

研究課題名（和文）産学接続による社会人基礎力養成のための教育プログラム開発

研究課題名（英文）Educational program development for developing basic skills for working people through industry-university connections

研究代表者

黒野 伸子（Kurono, Nobuko）

宮崎学園短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：70515957

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：近年、医療環境の変化による業務の複雑化、顧客意識の高まりによる患者対応の多様化などの影響で、医療系事務職員の育成は難しくなる一方である。そこで、医療系事務職員に必要な社会人基礎力に注目し、高等教育機関と医療機関を結ぶ「産学接続教育プログラム」を開発した。本プログラムは原則として正課内で実施し、入学当初から医療現場の経験、事務責任者へのインタビューレポート等を取り入れた。実施前後で学生の自己評価による社会人基礎力の測定を行い、その効果を検証した。学校教育を軸にした「産学接続教育プログラム」は一定の効果がみられ、これからの実務教育には重要であるとの結論に達した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の特色は、これまでの先行研究で明らかにされた社会人基礎力の定義を基に、座学から実習に至る教育プログラムを構築し、学生が入学から就職内定までの継続した教育を提供できることにある。本研究は広義で言えば「医療系スタッフ養成コースにおける実践教育課程の構築」と言えるが、研究の社会的意義は「医療系事務職員に必要な社会人基礎力の解明」「チーム医療への参画が期待できる産学接続教育の展開」の2点にある。本研究は、医療系事務職員養成に限定した試みであるが、医療機関との接続教育プログラムの構築ができれば、医療専門職との接続教育も実施可能となり、事務職がチーム医療に貢献できる端緒となると考える。

研究成果の概要（英文）：In recent years, it has become more difficult to train medical clerical staff due to the increasing complexity of work for the changes in the medical environment and the diversification of patient care due to increased customer awareness. Therefore, we focused on the basic competencies required for medical clerical staff and developed an "industry-academia connect education program" that connects higher educational institutions and medical institutions. This program was basically implemented within the regular curriculum from the time of admission, including experiences in the medical field, interview with administrative managers, etc. We verified the effect with the students' self-assessment of their basic skills as a member of society before and after the implementation. The "industry-academia connection education program" centered on school education has shown a certain effect, and we have reached the conclusion that it will be important for practical education in the future.

研究分野：医療保障制度

キーワード：社会人基礎力 産学接続教育 医療系事務職員 教育プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

平成12年の診療報酬改定で「診療録管理体制加算」、平成20年には「医師事務作業補助体制加算」が新設され、医療系事務職員(以下、医療事務職員と記す)の業務内容に診療報酬上の評価がなされた。その業務には、診療に関するデータ入力・管理、診療録等の記録物チェック、医療専門職との連絡・調整、診断書等の文書作成補助等、要求される医療事務職員の専門スキルは高まっている。

一方、社会が成熟するにつれ、患者は医療機関に接遇を要求するようになった。患者の顧客意識が高まるにつれ、この現象は今後も続くと思われる。医療専門職が優れた医療を提供するためには医療事務職員の適切な患者対応が重要である。井上・佐藤(2012)は、医療事務分野に必要な接遇には「患者心理を理解した臨機応変に対応するコミュニケーション能力<sup>1)</sup>」が重要であると、藤原(2008)は「情報活動と対人活動を通じた医療機関と患者との接点<sup>2)</sup>」であるとしている。医療事務職員の業務は、専門職のサポートが中心であること、業務内容の定義が明確でないこと等から、軽視されがちであった。しかし、ヒューマンサービスの他、多様な業務をこなさねばならず、コミュニケーション力、状況把握力、調整力等も兼ね備えた総合的な能力が必要である。

経済産業省は2006年に「多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「社会人基礎力 - 前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」を提唱し、社会人基礎力の能力要素として主体性、状況把握力、柔軟性、傾聴力等12項目を示した。社会人基礎力についての研究には、片岡(2015)の「チョイスゲームを用いた社会人基礎力の効果測定」があり、座学からグループ学習に至る教育プログラムを構築している。医療分野では看護師に求められる人間力(吉岡2014)、理学療法士協会による理学療法士に必要な社会人基礎力の研究がある(2012)。しかし、いずれも企業、医療専門職のみに特化した内容であり、医療系事務職員に必要な社会人基礎力は見えてこない。

これまでの研究および実践例からもわかるように、社会人基礎力は医療事務職においても必要な基礎力である。しかし、医療系スタッフを養成する大学および短期大学(以下、医療系スタッフ養成コースと記す)の教育内容は、多くは診療報酬制度、医療保障制度等、医療に関する事務処理の知識を得る科目群によって構成されており、社会人基礎力が身に付くとは言い難い。

## 2. 研究の目的

本研究は、短期大学に在籍する学生に必要な社会人基礎力を解明し、優秀な職業人を養成するための実践教育プログラム開発を目指す実証研究である。本研究は、卒業生が多く就職を希望する医療機関に注目した。医療事務職員といえども、総合的な能力が必要とされており、医療環境の変化による業務複雑化、顧客意識の高まりによる患者対応の難化に耐えうる人材の育成は急務である。しかし、医療に特化した教育課程になりがちで、学生が社会人基礎力を身に付ける機会は少ない。そこで、教育機関と医療機関を結び「産学接続教育プログラム」を構築し、優秀な職業人の養成に資することを本研究の目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、研究～に分類したうえで以下の順で進めるものとする。研究、では文献リサーチを経て、医療機関にアンケート調査および聞き取り調査を行う。調査結果の分析から医療事務職員に必要な能力要素を抽出し、医療事務職員に必要な社会人基礎力を決定する。研究では、明らかとなった社会人基礎力の能力要素に基づき、産学接続教育プログラムを構築し、実施する。研究では、研究の結果を踏まえ、教育効果測定を行う。研究、の結果も総合して教授方略をまとめ、他職種連携接続プログラム構築の可能性を新規科目の設定も含めて検討する。

### 1) 文献リサーチ【研究】

「社会人基礎力」「社会人基礎力養成プログラム」に関する先行文献により本研究に妥当性のあるものを抽出し、すでに理論化されているかどうか調査する。次に調査結果からプログラム構築のフレームを決定し、新たな科目を設定する必要があるかどうかを検討する。

### 2) 社会人基礎力に関するアンケート調査【研究】

### 3) 調査結果の分析【研究】

### 4) 教育機関で養成すべき能力要素の抽出【研究】

### 5) 学校教育と医療機関を結び産学接続教育プログラムの構築と実施【研究】

医療機関と接続する活動内容の再確認を行い、教育プログラムを作成し、プレ実施する。対象学年は、就職活動を開始する1年後期(4年制大学は3年～4年)とする。

## 6) 教育効果の測定と限界についての調査【研究】

授業評価質問紙調査を実施し、学習前の試験と比較し、学習効果測定を行う。実施後、協力教育機関・医療機関に聞き取り調査を実施し、教育の限界について検討する。

## 4. 研究成果

### 4-1. 先行研究レビュー

社会人基礎力養成に関する研究では、松井（2017）の報告があり、「大学で学び社会に出て、企業や地域、または国際社会の一員として活躍するためには、人と人との関わりの経験を多く積む必要がある<sup>3)</sup>」とし、そのためには、「学内のあらゆる教育機会に、社会人基礎力を育成するプログラムが不可欠である<sup>3)</sup>」と主張している。先行研究をみると、この考えは2014年から不変であり、この傾向は今後も続いていくと思われる。一方、文献整理は進んでおらず、中村他（2016）の報告が一件あるのみである。中村他は、2006年～2016年の社会人基礎力に関する文献を調査、検討し、社会人基礎力育成プログラムを「プロジェクト型」「体験型」「正課外型」の3タイプに分類した。本研究では中村の分類に従い、社会人基礎力が提唱された2006年から2017年10月までの文献を分類整理した。社会情勢にあった最新情報からの検討を加えるため、詳細な検討を加える文献は2015年から2017年10月までとし、必要に応じて2014年以降の文献を参照した。対象とした文献はCiNii Articlesより抽出し、医学系の論文については、医中誌、メディカルオンラインを使用した。調査対象は総数678件、うち、2015年から2017年10月までの学会発表抄録、会議録、研究対象が社会人であったものを除き、179編を最終調査対象とした。

分類の結果、179編中、「正課内授業型」が58編、「正課内体験型」が59編、「正課外体験型」が23編、どれにも当てはまらないものが39編であった。正課内での実施が約83.6%を占めることから、社会人基礎力の養成を教科教育の範疇で行っている実態を垣間見ることが出来る。実習、体験、産学連携といった用語が近年多く登場し、社会人基礎力養成は、学外で行うものだという先入観を持っていたが、大学教育の多くの場面で、社会人基礎力を身に付ける機会が多くあり、教育に活かされていることが示唆された。

### 4-2. 社会人基礎力に関するアンケート調査とその分析

グラフ（図1）は採用側が重視する能力をまとめたものである。左は医療機関、右は経団連の発表による2015年の結果である。2016年では「チャレンジ精神：46.0%」「協調性：49.1%」で、順位が逆転した。本結果を社会人基礎力の項目と比較し、分類した。調査は2015年10月、愛知県三河地区の医療機関246施設に対し、郵送質問法により実施した。（有効回答数：107件、有効回答率43.4%）アンケート項目は経団連が実施する「新卒採用に関するアンケート調査」を使用した。採用選考にあたって重視した点を経団連企業会員1339社（有効回答数709社：回答率52.9%）に調査したものである。

「前に踏み出す力」をつけるためには、「患者待遇」が適している。患者対応の難化に耐えうる人材育成のためには、雑用をこなすだけの臨地実習ではなく、医療機関と連携した教育プログラムを開発する必要がある。

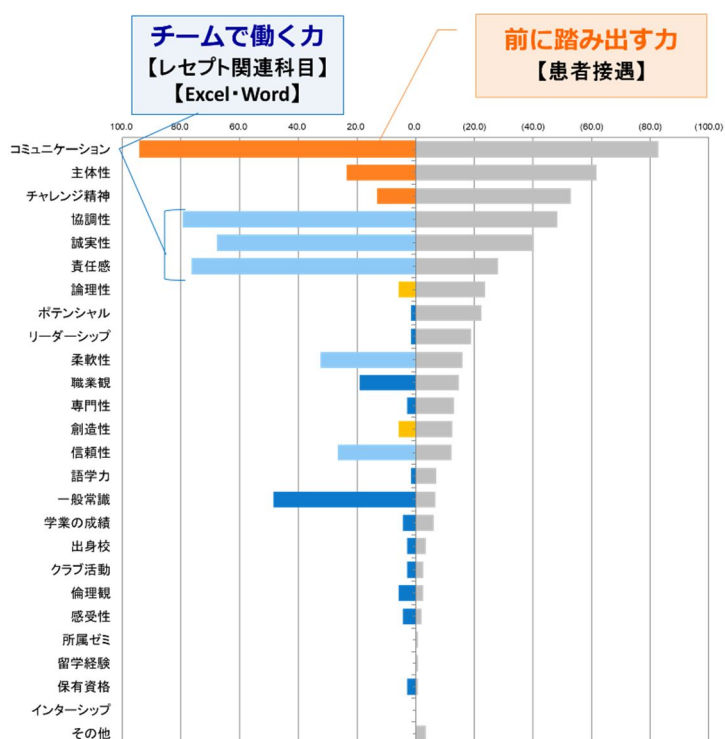


図1：採用側が重視する能力 - 医療機関と企業の比較

「チームで働く力」については、責任感、誠実性が要求される。現場では保険請求業務で養うことが可能であるが、教育機関では「レセプト関連科目」が該当する。本科目は、技術の習得に特化しがちであるが、レセプト点検には医療専門職と医療系事務職員の連携が重要である。医療機関との連携を図り、臨地実習の内容を根本的に見直すべきである。

#### 4 - 3 . 産学接続教育プログラムの構築とプレ実施

先行研究レビューおよび調査結果から得た以下の知見を基に、産学接続教育プログラムを作成した(図2)。社会人基礎力育成プログラムの実施は正課内が多かったが、その活動を学内の授業で実施した(以下、正課内授業と記す)場合、限られた空間での実験行動による社会人基礎力の養成が主であるため、心理的に楽な方法で社会人基礎力について学修することができる。したがって、実践前後の自己評価は上がる傾向にある。一方、活動を学外で実施する(以下正課内体験と記す)場合、学外実習や研修による社会人基礎力の養成が主であるため、社会の厳しさを目の当たりにし、実践前後の自己評価は下がることある。しかし、この体験は社会に出たときに、何もできない自分を見つめなおす重要な機会となるため、一概に教育の失敗だと決めることはできない。

以上の結果を踏まえ、正課内授業と正課内体験を組み合わせた産学接続教育プログラムを作成した。基本的に既存の科目「臨地実習」で実施し、その結果を踏まえて新たな科目設置を考えることとした。正課内授業として「実習事前指導」「実習事後指導」「実習報告会」を実施した。「専門ゼミナール」ですべて実施することができた。正課内体験は「臨地実習(5日間)」を対象とし、学生に自由記載で自己評価をしてもらい、社会人基礎力の向上があったかどうかを確認した。実習生21名の記載から最も多かったキーワードを抽出し、社会人基礎力の各能力に当てはめたところ、以下の結果となった。

- ・前に踏み出す力:「仕事に対する達成感」「社会に出る予習」「気遣いの大切さ」
- ・考え抜く力:「答えられる知識を持つ」「説明の難しさ」
- ・チームで働く力:「複数で確認」「チーム」「ひとりで抱え込まない」

実習生は以上の力を身に着けることが重要であると認識している。彼らは「患者様の存在を意識」しつつ「レセや会計だけじゃない普通の医療事務員の一日」を過ごし、「責任のある立場」に立つ緊張感を体験している。しかし、事前指導が1コマ(90分)と短時間であったことや医療機関の雰囲気や映像でしか見られなかったこともあり社会人基礎力の養成には至っていない。

#### 4 - 4 . 新設科目の検討とプログラムの修正

プログラム構築直後から新設科目の検討を行った。社会人基礎力の事前調査では「主体性」「発信力」「課題解決力」に欠けると意識している学生が多かった。そこで、1年次の正課内授業では医療環境を理解するため「好適空間論(1年前期)」に医療関連の単元を3~4コマ、正課内体験として「アウトキャンパスデー(1年後期)」を設けた。2年次の正課内授業では、「産学連携講座(2年前期)」を新設し、医療現場の事務管理者を招いて講義していただいた。既存の「ゼミナール」でも協働学習、卒業研究を大幅に見直し、産学接続プログラムに組み込むこととした。

本研究では正課内の活動を軸に検討していたが、海外研修担当者の協力が得られ、1年次の夏季休暇に病院研修を実施することができた(図3)。

各科目実施にあたっては、授業前に学生の質問、疑問、要望を聞き取った内容(アンケート作成ソフトを使用)と学生が作成した事前課題を協力病院へ送り、授業実施後は事後レポートを協力病院に送付する計画とした。教育効果の測定は学生の自己評価とレポートにより産学協力して行うこととした。

#### 4 - 5 . プログラム実施の結果

「産学連携講座」では地域医療支援病院の事務管理者、調剤薬局採用担当者の協力を得て、それぞれ2回から3回程度の出張講義を実施した。講義の実施前に学生が地域医療支援病院、調剤薬局の特性、業務内容について調べ、事務職員に必要な社会人基礎力を推測する事前学習(ワークシート作成)を行ったうえで、講義に臨む形式とし、講義後はレポートを提出させた。担当講師

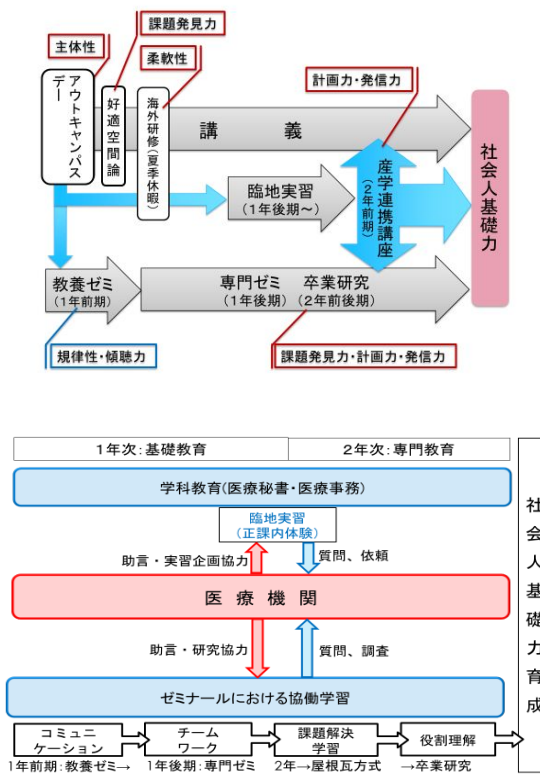


図2: 産学連携プログラム概念図

図2: 産学連携プログラム概念図

には、学生の質問、疑問、要望等を伝えておき、講義内で討議する時間を設けていただいた。事前のワークシートでは、教科書通りの内容を羅列するだけであったが、講義後のレポートでは、「現場に出ること」への意識、「自分の意見を言う」ことへの大切さ、グループワークを通して得た「チーム」の重要性が意識づけられたようであった。社会人基礎力の「主体性」「課題発見力」がないと動けないことを知ったといえよう。本科目は、その後、「病院ワンデイ見学会」「健康フェアスタッフ参加」「卒業研究協力」等に繋がり、産学接続の効果が得られている。

「アウトキャンパスデー」では名古屋大学医学部医学資料室の協力をいただき、見学を実施した。大まかな流れを学生に示し、グループ分け、移動手段、昼食場所の確認などはすべて学生が担当した。現地では近代に使用されていた医療機器や病室図、医学書などを閲覧した後、近代医学の変遷や現代医学との繋がり、医療環境の変化などを学芸員から解説していただいた。事後レポートからは、学生たちが医学の歴史を通して自らの立ち位置と責任感を再確認したようである。本科目では、特に「計画力」「傾聴力」「働きかける力」が伸びた。

「好適空間論」では、事前に医療機関に持つイメージを調査（2020年7月、1年54名）し、KHCoder3による対応分析を行ったところ、医療空間に対するイメージの具体像が明らかになった。特に病室に対するマイナスイメージが強く、この固定概念をなくすことを主眼とした授業を計画した。第1回目は医療環境の先進国であるデンマークを取り上げ、アンデルセンこども病院の協力を得て、医療環境の様子を学生に紹介した。第2回目は国内の医療環境を紹介するとともに、病室に必要な条件を学ぶ時間とした。第3回目はこれまでの学びを活かして医療における好適空間を実際に設計することとした。アンデルセンこども病院の様子を見た学生たちは1日も早く病室を飛び出したいようになるようなカラフルな環境づくりと治療に対する恐怖心を取り除く工夫に驚きを隠せない様子であった。その後の病室設計では音の配慮、動線の確保に留意しつつ、患者が安心して治療できる空間を構築できていた。レポートでは「病院は病気を治すことだけが大切だと思っていたけど患者が寛げる空間も必要」「患者様の目線に立って、危険ではないか、静かに過ごせるかということを考える必要がある」「患者さんに合った環境を整備することが大切。医療希望者として活かしていけたらと思う」など、課題解決力の向上が見られた。

プログラム実施前後の学生による自己評価では、いくつかの項目で評価が下がっていることが分かった。その多くが「規律性」「ストレスコントロール力」「状況把握力」であった。学生からの聞き取りによれば、「規律性」はチームで決めた決まりが守れなかったなどの反省であり、「ストレスコントロール力」はストレスの本当の意味を理解したことによる。「状況把握力」は把握の難しさを体感したことによる。学生は一連の活動を通して社会人基礎力の重要性が理解でき、次のステップに進むことができた。その結果は、卒業研究、就職などにも反映しており、本研究は一定の成果を挙げたといえる。

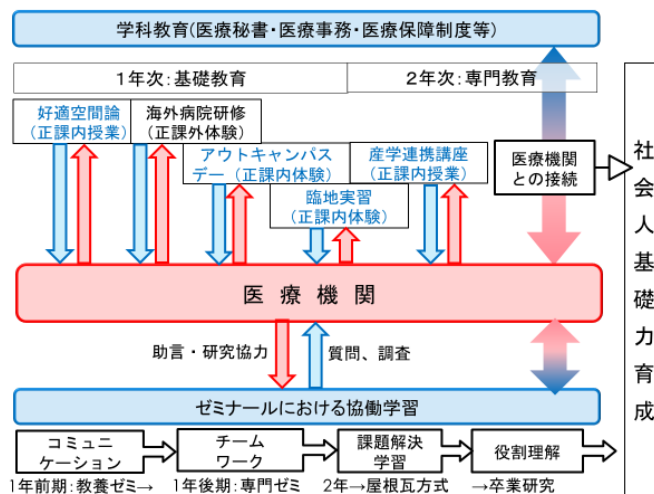


図3：修正版産学連携プログラム概念図

【引用文献】

- 1) 井上肇・佐藤麻菜(2012)『医療概論』建帛社
- 2) 藤原由美(2008)「医療機関の窓口業務における医療秘書活動に関する一事例研究」『自由が丘産能短期大学紀要』41、pp39-53.
- 3) 松井克典(2017)「健康・スポーツ系科目の魅力 アクティブ・ラーニングによる社会人基礎力の育成」日本工業大学『日本工業大学研究報告』47(2)、pp34-37.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 黒野伸子、小宮富子、祝田学、西元照幸、林陽子	4. 巻 3
2. 論文標題 「好適空間論」授業の展開と成果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子ども好適空間研究	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒野伸子、滝沢ほだか、横田典子	4. 巻 2
2. 論文標題 医療における「子ども好適空間」構築の重要性 第2報	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 子ども好適空間研究	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒野伸子、河合晋、大友達也	4. 巻 51
2. 論文標題 医療系事務職員に必要な社会人基礎力育成について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 4件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 黒野伸子
2. 発表標題 医療系事務職員に必要な 社会人基礎力の今
3. 学会等名 日向市東白杵郡病医院事務長会 第1回研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒野伸子
2. 発表標題 医療系事務職員に必要な社会人基礎力の今 - これまでの教育実践から見えてきたもの -
3. 学会等名 日本医師事務作業補助研究会 第16回宮崎地方会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒野伸子
2. 発表標題 医療における子ども好適空間理解の重要性とその教育
3. 学会等名 第53回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nobuko Kurono, Hiroshi Ishikawa
2. 発表標題 The world of Kodera family documents
3. 学会等名 The 2nd World Congress of Medical Insurance and Health Care (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒野伸子、滝沢ほだか、横田典子
2. 発表標題 子ども好適空間を主題とした医療系事務職員の養成と教育 第3報
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒野伸子、大友達也
2. 発表標題 古記録にみる明治期の医療観と医療行動 - 小寺家文書と信玄病院帳簿をてがかりに -
3. 学会等名 第121回日本医史学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tatsuya OHTOMO、Nobuko KURONO
2. 発表標題 Research on Effectiveness of Algorithm Medical Cost Calculation Method in "Ohtomo Calculation Method"
3. 学会等名 ASIAN COMMUNITY INSTITUTE(ACI)・JAPAN MEDICAL BENEFIT ASSOCIATION(JMBA) Co-sponsored International Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒野伸子、滝沢ほだか、町田由徳
2. 発表標題 医療空間、商空間における子ども好適空間の研究
3. 学会等名 第1回子ども好適空間シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒野伸子、大友達也、河合晋
2. 発表標題 医療系事務職員に必要な社会人基礎力 第3報
3. 学会等名 第52回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 黒野伸子、滝沢ほだか、横田典子
2. 発表標題 子ども好適空間を主題とした医療系事務職員の養成と教育 第2報
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒野伸子、大友達也、河合晋
2. 発表標題 医療系事務職員に必要な社会人基礎力とその養成 第2報
3. 学会等名 日本医学教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荻原菜里、黒野伸子、上松未季、米本倉基
2. 発表標題 診療報酬請求事務学習のためのルーブリック評価の活用実践報告
3. 学会等名 日本医療秘書学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒野伸子、河合晋
2. 発表標題 医療事務職に必要な社会人基礎力 - 先行研究レビューから -
3. 学会等名 日本ビジネス実務学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒野伸子、河合晋、大友達也、村田幸則、山崎将生
2. 発表標題 医療系事務職員に必要な社会人基礎力とその養成 第1報
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 大友達也, 小熊英国, 加藤淳, 黒野伸子, 酒井一由, 坂本ひとみ, 住谷剛博, 内藤道夫, 服部しのぶ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同友館	5. 総ページ数 197
3. 書名 レセプト管理論	

1. 著者名 井上深雪、小澤薫、鍵本由紀子、黒野伸子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 みらい	5. 総ページ数 215
3. 書名 看護職をめざす人の社会保障と社会福祉 第2版	

1. 著者名 黒野伸子、大友達也、黒木由美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本能力開発推進協会	5. 総ページ数 60
3. 書名 医科レセプト論 1	

1. 著者名 黒野伸子、大友達也、黒木由美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本能力開発推進協会	5. 総ページ数 60
3. 書名 医科レセプト論 2	

1. 著者名 山内一信、村田幸則、加藤憲、黒野伸子他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同友館	5. 総ページ数 372
3. 書名 病院管理学	

1. 著者名 守本とも子、黒野伸子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 みらい	5. 総ページ数 215
3. 書名 看護職をめざす人の社会保障と社会福祉 第2版	

1. 著者名 大友達也、黒野伸子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本能力開発推進協会	5. 総ページ数 60
3. 書名 医科レセプト論	

1. 著者名 黒野伸子、大友達也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本能力開発推進協会	5. 総ページ数 51
3. 書名 医科レセプト論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大友 達也  (Tatsuya Ohtomo)  (90369497)	就実短期大学・生活実践科学科・教授   (45302)	
研究分担者	河合 晋  (Susumu Kawai)  (20560725)	岐阜協立大学・経営学部・教授   (33701)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	石川 澄江  (Sumie Ishikawa)		
研究協力者	住谷 剛博  (Takehiro Sumiya)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------